

政策転換期を迎える日本の介護

海外人材に対する視座—EPA・留学・技能実習

趣旨

高齢者の増加と労働力人口の減少。人口の構成が変化する中、社会保障制度の維持は今世紀最大の課題である。中でも介護は財源だけではなく人材確保の課題も抱えている。私たちは長い時間をかけて介護を社会化し、質の高い介護の為に努力してきた。ところが現在、海外人材の導入という新たな人材確保案が浮上している。これは2008年の経済連携協定(EPA)以来だが、今回の案はどのようなもので、どのように位置づければいいのか。介護関係団体や移民の専門家と一緒に考える。



日時・場所

◆ 2014年6月15日(日) 13時00分～17時00分 (開場 12時15分)

◆ キャンパスプラザ京都 第2講義室

JR京都駅中央口を出て左(西)に徒歩5分(詳しくは、裏面の地図をご覧ください。)

登壇予定者

ご挨拶

武内 和久(厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長)

- ・ 安里 和晃(京都大学大学院 文学研究科特定准教授)
- ・ Dewi Rachmawati (EPA看護師)
- ・ Mia Roselyn Oplas (特別養護老人ホーム 第二溪山荘 ぽっぽ介護福祉士候補者)
- ・ 石橋 真二(公益社団法人 日本介護福祉士会会長)
- ・ 大橋 正行(公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会副会長)
- ・ 因 利恵(日本ホームヘルパー協会会長)
- ・ 崔 麟祥(台湾長期介護発展協会連合会会長)
- ・ 二文字屋 修(NPO法人 AHPネットワークス専務理事) (順不同・敬称略)